

県連ニュース

2017年 1月号 NO-545



2011. 11. 06 撮影

三ツ峠山から「小屋と富士山」
滋賀山友会所属 山森 恵子さん提供

滋賀県勤労者山岳連盟

目 次

	新年のご挨拶	2
寄稿	エッセイ	3
案内	やまスマホ超々入門講座	4
報告	第11回 理事会 議事録	5
	40周年記念講演会 報告	7
	日本山岳文化学会 第14回大会 報告	8
	全国自然保護集会に参加して	9
	ぐうたら理事長のつぶやき	11
	予 定 表	13
	編集後記	14

新年のご挨拶

滋賀県勤労者山岳連盟
会長 秋田 誠

新年おめでとうございます。

日ごろ、滋賀県勤労者山岳連盟の活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。本年もよろしくお願いたします。

みなさんは新年に「初夢」をご覧になりますか？

「初夢」ってなに？ ウィキペディアによると、「新年のある夜に見る夢。この夢の内容で1年の吉凶を占う風習がある。字義どおりに新年最初に見る夢とされることは少なく、現代では1月1日から2日の夜、または2日から3日の夜に見る夢とされることが多い。」とありました。

初めて「初夢」という言葉が文献に現れたのは鎌倉時代、12世紀末だそうです。西行法師の和歌を集めた「山家集」に、「年くれぬ 春来(く)べしとは 思ひ寝に まさしく見えて かなら初夢」と詠まれているのが、文献上での「初夢」の初出だそうです。「初夢」の定義が現在のようになったのは、明治の改暦以降のようです。私は親に「初夢」は正月2日夜の夢と教えられて育ちました。でも、2日の夜に見る夢が「初夢」だなんて、変。2日の夜見る夢が「初夢」って、どーいうこと？ ずーっと疑問に思っています。元旦の夜に見た夢はどーなっちゃうの？ 2日には書初めや初売りなど新年行事が行われるからかな？

ところで、私は寝つきが異常に良いんです。テント泊山行をお付き合い頂いた方はよくご存知だと思いますが、1、2の3分でころっと眠っちゃうひとなんですなあ。ひと度眠ってしまうと容易なことでは目が覚めません。な訳で、山に入っていない正月は、毎年良い初夢を見たいと思いつつ床に入るんですが、翌朝起きると夢のゆの字も覚えていないのであります。おそらく夢は見てるんでしょうが、起きたときには綺麗さっぱり忘れてるんでしょうね。今年もあんまり期待できないけれど頑張ってみよ。床に入ったら、目をつぶって、ひつじが1ぴき、じゃなかった、初夢、いい夢って念じて・・・。

初夢はともかく、幾つになっても「ゆめ」を持つことはとっても大事です。「ゆめ」があるから日々の苦勞を乗り越えて生きていけるんです。時がゆっくり流れる年の初めに、自分の「ゆめ」って何だろう？ と想いをはせてみませんか？ そーだ、テント泊の夜は、「ゆめ」語ろう会しよう！ 誰ですか？ どーせ、ホウ吹き大会だろ。なんて言ってるのは、



南ア・濁川本谷

今回もまた、わざわざ書かなくても良いのと思われそうなことを書きます。書かなくても良いというのは自分が実際に活動していないし、足を運んだり測定を行ったりしているわけではないからです。しかし、ボランティアで労を惜しまぬ人に「何のためにやっているのですか？」と問わずにはおられません。その手間だけでも、大変だろうと想像するからです。

滋賀労山では、県連盟の自然保護部が担当しています。2014年からは始められたようです。山や登山道の放射線量の測定です。経年変化をとらえるためか、同じ場所での測定も行われています。

放射線の測定は、地上1mの位置で行われます。地上に落ちている放射性物質が放った放射線をカウントして、1時間当たりの強さを計算しています。1mというのは重要な数字で、子供であれば全身を突き抜ける高さであり、大人であれば睾丸や卵巣を通過してしまう高さになります。

本来自然の山に、カウントされるような放射性物質はないはずですが、過去に行われたアメリカ本土の核爆発実験、広島・長崎の原爆投下、太平洋上の核爆発実験、スリーマイル島・チェルノブイリ・福島第一原発の事故などによって放射性物質のチリは地球上の隅々に拡散しました。チリは比重が大きく目に見えない細かさであるため、岩の割れ目や隙間、柔らかい土や落ち葉の間に吸い込まれるように入っていきます。一度土壌の中に染み込むと水平移動は進まなくなり、その場所に留まることになります。硬い岩やコンクリートの表面に乗った状態のチリは、風で飛ばされたり雨水に流されたりして移動します。福島第一原発事故の時には、トユの水を集めた雨水マスや下水処理場の焼却灰の中に、放射性物質が集約され、更に凝縮されて危険性が増したりしました。

山や登山道でも同じことが起こっているはずですが、尾根や山頂ではチリが集まることは考えられません。チリは雨水に流されて、池や堰堤のたまり水の底に集まっているのではないのでしょうか。植物の生息が濃い場所では、根から水分を吸い上げる関係で放射性物質も同時に吸い上げられ、水平移動が進みません。保水能力が高い腐葉土では特に水平移動は進まないでしょう。濃縮が起こったところで、健康被害が起こるほどの測定値は得られないとしても、その場所を予想して、例えば、堰堤のバックウォーター付近とか、河原に堆積した砂地とかヌタ場のような所。そういう比較的高い数値が得られそうな場所の測定が、必要ではないのでしょうか。逆に、河内の風穴の奥など、チリが落ちる影響の少ない場所の測定も興味深いところです。

放射性物質が出す放射線の半減期は、とんでもなく長い期間が言われています。2011年からまだ5年。半減期の長さも物質の種類によって様々で、強いものは早く弱まるが、弱いものはなかなか弱まらないそうです。継続的な測定は大切ですが、同じ場所の測定は結果的に水平移動が進んだという意味しか持たないのではないかと。それよりも、雨水に流され集約が進んでいそうな場所の測定の方が、より安心安全に貢献するのではないかと思います。

失礼な言い方ですが「何を測っているのか?」「機械的な測定に終わっているのではないかと?」というのを、今一度問い直すべきではないでしょうか。

スマホ活用してはる??

--- スマホで山をもっと楽しく ---

救助隊

お友だちやご家族に言われて、LINE するためにガラ携からスマホに替えたあなた。通話料に見合うほど活用してますか？ せっかくのスマホ、山で使い倒しましょ。

やまスマホ超々入門講座

〔日 程〕 第1回 1月24日(火) 19:15 - 20:45
第2回 1月31日(火) 19:15 - 20:45
1回だけの受講もOKですが、2回受講がお勧めです。

〔会 場〕 県連事務所
京阪石坂線「栗津」駅下車2分(下の地図参照)

〔内 容〕 第1回 スマホの基本操作
ホーム画面にアイコン、写真のPC転送、スクリーンショット、コピペ、アプリ入手などを学びます。

第2回 アプリ紹介
GPS、雨レーダーなど山で便利なアプリの紹介と使い方。

〔受講料〕 1回500円

〔申込み/問合せ〕 TEL 090-3727-3721 (秋田)
又は e-mail: marumeno@yahoo.co.jp

☆ 申込みときにスマホのOS (i-phone/アンドロイド) を連絡してください。

〔締め切り〕 2017年1月23日(月)



2016年度 第11回 理事会報告

12月7日(水) 19:00~20:30 県連事務所

出席; 秋田、北村、友永、奥野、宮内、小林、佐藤、堀部、大月、長谷川、西村、
中島、池田、高玉、東郷(記録)(理事会定数15名)

欠席; なし

★下記の議題について、報告 協議 決定しました。

1. 道迷い遭難事故防止講演会(40周年記念行事)(報告)

日程: 11/19(土) 18時~21時

会場: ピアザ淡海 207号会議室

講師: 羽根田 治氏

参加者数: 滋賀労山会員 57名 他府県労山会員+一般 31名 合計 88名+マスコ
ミ 2名

報告は県連ニュース1月号に掲載

感想ほか

京都新聞と毎日新聞に掲載されていた。

新聞を見ての申込者は少なかった。

資料の字が小さく見えにくく、部数も不足した。

講師の声が小さく、速かった。パソコンとプロジェクターの相性が悪かった。

2. 40周年記念行事について(討議)

- ・40年の歩み年表 30周年の資料にプラスした年表を作成する
- ・祝賀会開催 担当→ 友永、中島、奥野
- ・登山祭典開催(10月) 各会でコースを決め例年通り行う。

3. 総会議案書草稿作成(依頼)

- ・2016年度活動報告/2017年度活動計画の草稿を北村まで提出(期限:12/20)
教育部(長谷川)、自然保護部(中島)、遭難対策部(西村)、機関誌部(奥野)、
組織部(池田) 財政部(宮内)、救助隊(秋田)、CSS(北村)、SKI-NET(北村)、
- ・総会までの日程(案)

1/11(水) 第12回理事会:議案検討-1

1/25(水) 第13回理事会:議案検討-2、決算案検討

2/8(水) 代表者会/第14回理事会:議案検討、決算・予算案検討(監査の日程あり)

2/18頃 議案書印刷、製本、発送

3/1(水) 第15回理事会:総会準備、(資料集印刷)

3/12(日) 総会(滋賀県スポーツ会館)

4. 各部報告

組織部；前月末の会員数（2016・11E／2016. 10E）

山友会	84/85	岳友会	45/46	雪稜会	52/52	彷徨	18/18
ちごゆり	16/16	シャクナゲ	5/5	合計	220/222	(99.1%)	

※前年度末比 220/232 94.8%

・カレンダー 山友会 5部 岳友会 5部 雪稜会 12部 彷徨 4部 ちごゆり 5部
県連 6部

教育部、遭対部、財政部、CSS：特になし

自然保護部：放射線測定を精力的にやっている

SKI-NET：ニセコ

機関誌部：1月号の原稿締切 12/15 印刷・発送 12/21

新年のご挨拶(秋田)、理事会報告(友永)、リレーエッセイ(シャクナゲ)、
講演会報告(佐藤)

救助隊：12/16 搬出打合わせ 京都

技術研修会「山にスマホを活用しよう」1/17、1/24 の2回講座
夜県連事務所にて

5 その他

・滋賀民報の連載について

滋賀民報社より北村副会長宛に連載原稿執筆の依頼あり

2月～12月(月1回)企画。原稿本文800字、メモ200字、トータル1000字で、
タイトル(仮称)は『登山教室 山を安全に楽しく』とし、テーマは一任。

秋田、友永、北村で3人の輪番 労山の催しも紹介し宣伝にも活用する

・携帯トイレ普及活動について

活動は継続するが、ブースの設置については維持管理に負担がある。

・清掃登山→岳友会 高室山 11/6 実施報告 12名参加 回収ゴミは39.5kg

・第18回全国自然保護集会 11/12～13 つくば市 筑波ふれあいの里

雪稜会 近藤さん参加→報告は県連ニュースで

・第14回日本山岳文化学会大会 11/26～27 東京都 東京慈恵会医科大学

秋田会長参加→報告は県連ニュースで

・第24回近プロ雪崩講習会 2017年1月28日(土)～29日(日) 堂満ルンゼ周辺

・第1回評議会 2017/2/18～19 晴海グランドホテル(秋田会長参加予定)

■ 次回第12回理事会 1月11日(水) 19:00～

滋賀労山創立 40 周年記念講演会

『道迷い遭難事故の現実と対策』を開催しました

11月19日、ピアザ淡海で講師に山岳遭難シリーズや自然・登山関連のフリーライターで長野県遭難防止アドバイザーの羽根田治さんをお招きして講演会を開催しました。

当日は滋賀労山会員 57 名、兵庫・京都労山会員 11 名、一般参加 19 名の方々が聴講されました。全国から登山者が訪れる遭難最多県長野の最近の遭難事故統計によりその実態とともに



救助活動の実状について解説されました。事故事例として低体温症、落雷、熱中症、滑落などがあげられ、転滑落事故ではヘルメットの着用の重要なことがよく分かりました。長野県登山安全条例にある「登山を安全に楽しむためのガイドライン」や「信州山のグレーディング」にもとづいた自分の体力レベルの明確な認識、事前準備としての登山計画(書)の意義、もしもの備えとしての山岳保険、携

帯電話（救助要請の7割）やGPS機能の活用、予備バッテリーの携行などの対策、遭難に至らない体力・技術・ルート不安などからの救助要請のあり方などが説明されました。遭難したときどうするか？心構えと対処の仕方、救助に必要な情報（場所・天候・目印・遭難者の状況・登山届の提出先）を適確に伝えることなどや可能であれば発見されやすい場所への移動などが有効。後半は道迷い遭難を防ぐために心得ておきたい注意点の詳しい説明がありました。コースを外しやすいポイントとして、登山道が尾根から逸れる箇所・登山道が沢を横切る箇所・小さな標識の見落とし・コースを示す印の見落とし・岩場での印の見落とし・通行止めサインの見落とし・視界が悪いときの雪渓上などがあげられ、道迷い遭難の典型的パターンとして「あれ？おかしいな。この道でいいのだろうか。まあいいや。もうちょっと行ってみよう。」引き返せない人間の心理として「正常性バイアス」「楽観主義バイアス」「決断の先延ばし」「労力の比較」などの要因があることについて言及がありました。また、講師がこれまでに取材されたり自身が体験した道迷いの数々の事例につ



いて説明され、そのうえで道迷いの初期段階で心得ておきたい事項、完全に道に迷った場合のとるべき対処方法などを詳説されました。私たちにとっていつ自分が遭遇するかもしれない遭難リスクを避けるうえで今回の講演は多くの示唆を与えるものと思います。なお、当日は京都新聞社、滋賀民報社が取材し記事掲載されました。

（遭難対策部 佐藤）



日本山岳文化学会第14回大会報告

滋賀県勤労者山岳連盟
救助隊 秋田 誠

11月26日と27日(日)の両日、東京慈恵会医科大学(新橋、東京)で開催された、日本山岳文化学会第14回大会に参加し、「登山計画書提出システムの現状」と題する研究発表を行いました。

日本山岳文化学会は、人文、社会、環境、自然科学などのあらゆる分野にわたり、広く山岳に関連する諸問題について学問的解明、分析、研究を行っている学会で2003年に設立されました。私は6、7年前に知人の紹介で入会し、これまでも遭難救助に関連する研究を発表してきました。今回は滋賀県連の講習会受講補助制度を使わせて頂きましたので、大会の概要を報告させていただきます。

1. 第14回大会の概要

第1日目は11月26日(土)9:00に開会し、分野ごとに分けられた5つのセッションで、「会津藩に関連する地誌に記載された山の図会」(森山安次氏)、「苗場山の山頂溶岩台地における第四期氷河作用」(長谷川裕彦氏)、登山者のハチ刺され遭難の検証(野口いずみ氏)など20題の研究発表があり、筆者もセッションⅣで口演しました。また、セッションⅡとⅢの間には、登山時報の連載記事「クイズ 地図読み迷人」を監修されている、静岡大学教授 村越真氏が「リスクと向き合う」と題して講演され、登山届に関する氏独自の考えを示されました。時間の都合で、先生とは短時間の意見交換にとどまりましたが、機会があればお招きしてお話を伺うのも良いかもしれません。

第2日目は「多雪山地の人と自然」をテーマにしたシンポジウムが開かれ、雪の多い北日本に居住する人々と雪との関わりについての研究が発表され、総合討論が行われました。

2. 筆者の口演



学会会場風景

本研究は救助隊々員の乾久子さんとの共同研究で、長野県や北海道をはじめとする全国の山岳を有する自治体(遭難多発自治体でもある)における登山計画書提出システム(登山届電子申請)の現状を調査し、その問題点と今後の取り組みを提起したものです。結論として、(1)スマホ普及により、電子申請は最も有効な登山届の方法と考えられる。(2)現状の電子

申請は記載項目が多すぎて記入が煩雑、遭難発生時の1次対応に不可欠な項目に厳選すべき。(3)電子申請を未組織登山者に焦点を絞って改良し広報することが重要。

(4)登山届電子申請の整備にあたり、警察は自治体警察の垣根を越えて連携を一層強化し、積極的に登山者の参画を求めべきである。などを報告しました。

2016年 第18回全国登山者自然保護集會に参加して

比良雪稜会 近藤ひろみ

11月12,13日茨城県つくば市筑波ふれあいの里にて、「自然保護憲章制定から10年と、今後の自然保護について」をメインテーマに開催され、参加してきました。

まず、13日の午後より小川潔氏（東京学芸大学名誉教授）による「労山自然保護憲章制定から10年、今、何を指すか」の講演がありました。登山文化の継承と、山岳自然と登山者との新しい共存を目指して憲章を制定した事、その後国民運動になるような象徴的開発反対運動が減り、国民の関心が地球温暖化やボランティアによる自然維持活動に移ってきた事、今後の課題として、憲章を可視化して会員に周知する事、組織外の登山者への啓発方法を考える等の内容でした。

次は元自然保護憲章制定委員会座長の鈴木貫太氏で、その当時の背景と現在の課題の提起等、更に詳しく話されました。憲章自体は抽象的なので具体的な行動規範を作ることが必要との話もありました。

その後、宮城県、愛知県、大阪府、東京都、栃木県等の地方連盟の自然保護活動報告がありました。それぞれ清掃登山等いろいろ活動をされているようですが、自然保護憲章が会員に行き渡っていないとの話が多かったです。

終了後の懇親会は、落語あり、大道芸あり、歌ありで、皆さん楽しんでいました。

2日目は午前中が分科会で、私は第1分科会「現行自然保護憲章の役割と労山会員への普及について」に参加し、活動報告、意見交換をしました。

やはり、憲章が会員に行き渡っていないという話が多い中、大阪府連は新人に憲章を配っていて、とても盛んに保護活動をやっています。東京都連では、「ローインパクトの登山」という具体的な行動規範の冊子を作り、会員に配っていました。

午後から、茨城県連の案内で筑波山に登りました。とても天気が良く紅葉の時期更に月が最も地球に近づくスーパームーンという事で観光客が多く、頂上200メートル手前から渋滞で1時間かかった上、頂上では混雑で周りを眺めることができませんでした。街着街靴で滑りやすい山道を歩く人がいたり、下り時に最後まで(夕方なのに)登りの人とすれ違った事、赤ちゃんを胸に抱っこして登る人がいる事など、とてもびっくりしました。ケーブルカーが8時までやっているそうですが、ローインパクトの登山どころではなく、考えさせられる状態でした。

☆感じた事

会員に清掃登山等の自然保護運動の意義を知ってもらうためにも、この憲章の認知は重要だと思いました。私の場合、会に入った時も県連の自然保護担当理事をやった時も、憲章の冊子は貰っていません。まずそこから始めたいと思いました。雪稜会の新会員に配ることを会に提案します（県連でやって頂ければもっといいですが）。また、会独自の具体的な活動規範を作る事もチャレンジしたいと思います。

最後に、集会の詳細に興味のある方は、資料をお貸ししますので、ご一報ください。

以上



ぐうたら理事長のつぶやき

登山祭典、道迷い講演会など今年度の 40 周年記念行事は、皆様のご協力で無事に終える事ができました。ありがとうございます。

いよいよ第 41 回総会へ向けて議案書を作る時期となりました。まだまだ十分な活動はできておりませんが、来年度に向けての反省や方針を議論していきたいと思えます。皆さま方からも高い？連盟費を収めていただいております。理事会の力不足を補うためにも皆さま方のご意見をいただきたいと思えます。「こうしてはどうか？」「こんな事は出来ないのか？」「ここはこんな風に改善しては」など、どんな意見や感想でも良いのでお寄せください。もちろん今の理事会の力ではすべての事に応える事はできませんが。一つでも二つでもやっていきたいと思えます。ぜひご意見やご感想をお待ちしています。

年も押し詰まり新しい年を迎えます。若い頃はどんな「初夢」を見ようかなんて思って新しい年を迎えたものですが、今は「正月や冥途の旅の一里塚」なんて句を思い浮かべる年になりました。

今回は「夢」の話をしませうか。私の若い頃の夢は「冬の南アルプス全山単独縦走」でした。その夢の実現に向かって少しは努力もし、冬の南アルプスを知るために何度も入山しました。そんな中で、ラッセルの厳しさや、気象条件の厳しさ、一人の寂しさに長い時間耐える事の不安などで、これは俺にはとても無理だといつしか諦めてしまいました。続けていたトレーニングもやめてしまいました。それでもせめて主稜線を夜叉神峠から光岳まで、細切れで良いから歩いてしまいたいと思えました。1976 年 12 月の鳳凰三山縦走に始まって、1991 年 1 月の光岳まで 15 年もかかって光岳まで歩く事が出来ました。

その記録の最後に「風雪の中、光岳の山頂に立つ事が出来ました。5 分という事の出来ぬ山頂でした。夜叉神峠から 15 年の時が流れて、やっと光岳の山頂に立つ事が出来ました。嬉しい半面、一つの夢が消えた淋しさも感じています。冬の南アルプス全山単独縦走を夢見て始めた冬山。それから 15 年の時が流れてしまった。それは、うたかたの 15 年だったのかも知れない。でも、これだけは自信を持って言える、自分にとって悔いの無い 15 年だったと・・・。」と感想を書いていました。

これで終わりだと思ったのに、あるきっかけでやる前から出来ないと決めている自分が情けないと感じる事がありました。40 半ばに達していたので無理だと思ったのですが、無理だったと言う事を確かめたいと思い、トレーニングから再開して実行する事にしました。1992 年 12 月 26 日戸台から北沢峠に向かって歩き始めました。さすがに体力もなく、気力もすり減って 1993 年 1 月 15 日に茶臼岳から下山して畑薙ダムに下りました。白峰三山はカットし、光岳まで行く気力も無くなり、間違いなく無理だったと確認できました。確かに果たせなかったのだけど夢に挑むところまでは成長できたと感じました。

皆さんは「山」にどんな夢を見えていますか？ 一度聞かせて欲しいと思います。

ハイクセミナー第 2 回目は「鏡山～大文字山」まで 1 月 21 日(土)に行きたいと思います。

8 時山科駅集合で、びわ湖疎水沿いを歩いて鑑山から大文字山に登り、山科駅に戻りたいと思います。参加していただける方は 1 月 18 日までに友永まで連絡してください。

電話番号 077-524-5618 メールは yt19481013@yahoo.co.jp です。

行事予定

月	日	県連・全国行事	月	日	各会の行事	会名
1			1	1	比良・権現山	山友
				1	初日の出山行/権現山	雪稜
				3	京都・愛宕山	山友
				3	武奈ヶ岳(新春登山)	彷徨
	11	第12回理事会		8	マキノ・赤坂山	山友
				8	新春山行/武奈ヶ岳	雪稜
				8	愛宕山新春登山	ちご
				9	音羽山	山友
				8	新春登山(比叡山)&新年会	岳友
				14-16	志賀高原スキー例会	山友
				19	ミーティング	彷徨
		22	初級クライミング教室	山友		
20-24	ニセコススキー(スキーネット5日コース)	22	スノーハイク・岩籠山	岳友		
20-28	ニセコススキー(スキーネット9日コース)	22	寒風～栗柄越(高島トレイル)	雪稜		
25	第13回理事会	28	ミーティング	岳友		
		29	比良・鳥越峰	山友		
		未定	飛鳥ウォーク	ちご		
2			2	4	定例山行(場所未定)	岳友
				5	汁谷～長池巡回スノーハイク	雪稜
				5	八幡山	ちご
	8	代表者会、第14回理事会		12	栗原～打見山	雪稜
	11	雪崩講習会 スキージャム勝山(スキーネット)		16	運営委員会	岳友
				16	ミーティング	彷徨
				19	綿向山・樹氷ハイキング	岳友
				19	第38回定期総会	雪稜
				19	おまかせ山行	ちご
				25	ミーティング	岳友
		26	余呉一周	雪稜		
		未定	探鳥ウォーク	山友		
3			3	未定	月ヶ瀬(梅巡りウォーク)	ちご
				5	3月例会(場所・思案中)	岳友
	12	県連総会、第1回理事会		5	袴腰山～立木山	雪稜
				16	ミーティング	彷徨
	18-20	妙高スキー 黒姫山(スキーネット)		18	鈴鹿 / 御池岳	岳友
				19	沖ノ島巡りウォーク	ちご
		26	高御位山(兵庫県)	雪稜		

会名略号 山友:滋賀山友会、岳友:湖南岳友会、雪稜:比良雪稜会、ちご:ちごゆり山歩会
 シャク:シャクナゲ溯行クラブ、彷徨:彷徨倶楽部
 スキーネット:山スキーネット滋賀、CSS:クライミング研究会滋賀

『編集後記』

皆さん、新年明けましておめでとうございます
本年も多くの方々に読んでいただけますように

表紙の写真、新年にふさわしい写真ですね。提供ありがとうございます。
昨年から、ページ数の関係で奇数時に『編集後記』を挟むようにしてみました。

ところで、昨年の40周年記念 登山祭典のイベントで、滋賀山友会の会員の皆さんが山の歌を披露されたそうです。されたそうですというのも、私はあいにく仕事で参加できなかったので、残念ながらこの耳で直接聴くことはできませんでした。

昔話なので読み辛い方は少し我慢してくださいね。
学生のころは、1回の山行は少なくても1週間から10日ほど、多ければ2週間ほど山に入りました。もちろん食料・鍋・釜持参のそれはそれは重量もすごいものでした。なので、辛くてしんどい思いしか残っていません。が、ただ一つだけ楽しかったことがあります。それは幕場での食事の後片づけをしながら聞く、先輩連中の山の歌でした。哀調をおびた歌詞が多かったように思います。その中でもすごく心に残っているのは、法政大学山岳部歌『エーデルワイスのうた』でした。私と同年輩の方々は、一度はお聞きになっていたかもしれませんが。春・夏・秋・冬と結びに分かれていて、その中でも結びの歌詞が、私は一番好きでした。

結びの歌詞を抜粋します。

(^^♪ああ玲瓏の 雪の高嶺に 心静かに 頂に立ち
尊き山の 教えを受けん(^^♪実も魂も けがれは消えて
ともに輝く 白光のうちに 清き幸をば 求めうるらん(^^♪

最近山に入っても、なかなか山の歌を耳にすることは無いように思います。
滋賀山友会の皆さんが歌った山の歌、聴きたかったなあ～



本年もどうぞよろしく願っています。

機関誌部：編集担当 奥野

滋賀県勤労者山岳連盟は
本年 40 周年を迎えます



原稿の投稿先（2月号は2017年1月15日〆切）
メールアドレス okunoyutaka@yahoo.co.jp まで

原稿はB5サイズ、フォント10~10.5で、使用する写真は
200KB以内として下さい。皆様のご協力をお願い致します。

「県連ニュース」№545

発行日 2016年12月21日

滋賀県勤労者山岳連盟

〒520-0836

大津市杉浦町9-30

Tel 080-4971-6231

Eメール shigarosan@gmail.com

<http://shigarousan.jimdo.com/>

ゆうちょ銀行(店名418)普通0239956

発行責任者 友永芳和

編集委員 奥野 豊

小林智子

高玉敬子